

人の生き様から学ぶ生き方



Volume 1



1964年大阪府生まれ。2002年、「天国へのお引越し」をキャッチフレーズに同社を設立。年間1700件の遺品整理サービスを提供するほか、宅地建物取引士として相続不動産の売買を専門に行なう不動産会社「ホームパック」も設立している。著書は『遺品整理屋は見た』(扶桑社)、「おひとりさまでもだいじょうぶ」(ポプラ社)など多数。さだまさし原作の映画『アントキノイノチ』のモデルとしても知られる。

本連載第2シリーズは、遺品整理専門のキーパーズ(有)・吉田太一氏にご執筆いただきます。

「あなたが神様に見えるわ!」から始まった「遺品整理屋」

部屋に大量の家財道具が。リサイクルかと思いきや...

17年ほど前、わたしは日本初の「ひっこしやさんのリサイクルショップ」を開業し、関西のテレビの取材をよく受けていました。

そんなある日、1件の引越しの見積もり依頼があり、大阪市内のマンションを訪問したのです。部屋は3LDKで、50歳代と思われる姉妹が

二人でおられ、それぞれ東京と横浜の自宅へ数点の家財を運んでほしいという依頼でした。

その後、仕事を受注し帰ろうとした私は、部屋の中に大量に残っている家財道具を見て「あの家財道具はどうされるのですか?」と尋ねました。するとお姉さんが、タウンページを片手に「今から便利屋さんやリサイクルショップを探さないといけないの」と仰ったのです。

そこで、「私のところで全てできま

すのでお受けしましょうか?」と伺うと、「え! 本当にお願ひできるの!」とびつくりされました。そして「このタイミングで全部を引き受けてくれる人は神様に見えるわ!」と言われたのです。

もちろん私は、なぜ神様って言われたのだろうか?としばらくは理解できませんでしたが、もう一度部屋の中を見た時に気付きました。

そこには、二人のお父様であろう遺影とご遺骨が供えられていたのです。

専門会社が一件もない。ならば自分が創ってみよう!

つまり、ここに住んでいたひとり住まいの父親が他界し、関東に嫁いでいた娘たちが「親の遺品の整理」のために大阪に来ていたというわけだったのです。当時、世の中に遺品整理専門会社はなく、さまざまな業種の企業から見積もりを取り、遺族が段取りを組まないといけない状況でした。お二人も

数日間大阪に滞在する予定でしたが、私が一括でお受けしたことで用件が済み、その日中に東京と横浜へ戻る事ができたのです。

帰社後私は、核家族化が進み高齢者のひとり住まいが急増している中で、同じような悩みでお困りの方は多いだろうなと思ひ、そのような専門会社がないかと調べてみました。

すると一件もないことが分かったのです。私は、「誰もやっていないのならおもしろい。創ってみよう!」と咄嗟に思ったのです。これが日本初の遺品整理専門サービスの始まりでした。

その後2年間、試行錯誤を繰り返しながら、3年目に縁あって、愛知県の刈谷市に遺品整理専門会社キーパーズを設立することになりました。創業8ヵ月後には東京に支店を出し、現在は北から釧路、札幌、東京、名古屋、金沢、大阪、福岡、北九州、釜山とすべてグループ直営の体制で、年間1700件の遺品整理サービスを提携。相続物件の売却のお手伝いを行なう不動産会社も営んでいます。

不安と思わず前向きに。強気のおかげで今がある

最近、「創業から15年間継続してこられた要因は何だったんだろうか」と振り返ることがあります。どんな状況でも心が折れなかったのは、「神様に見えるわ!」の言葉があったからに違いありません。

しかし、それ以外にいくつもの理由があったことに気がきます。

まず、「日本初のことをするのにデメリットはなく、メリットしかない」と思えたことです。うまくいけば自分の考えが世の中のスタンダードになり、ライバル会社がいらないので闘わなくてもいい。だから負ける心配もないし、サービス価格も自由に決められる。いいことだらけですよ。

また、キーパーズを刈谷で創業後、「1年以内に東京支店を出店できなければ失敗」とみなして辞める」と宣言したことも良かったかもしれません。その結果、8ヵ月目には東京支店を出店できたのです。(つづく)

遺品整理サービスのパイオニアが語る 人の生き様から学ぶ生き方



イラスト：関根康信